



スクールリポート

▶ 学校教育課
☎23-3679

学校生活の
一コマを
紹介



「豊かな自然が育む」 フレンズ班活動

高松小学校



●みんなで海の生き物を作りました



●完成した作品の前で記念撮影

高松小の全校児童81名はとても仲良しで、1年生から6年生まで縦割りで活動する「フレンズ班活動」が盛んです。春の遠足では、みやほうべの海岸で今年もサンドレリーフ作りに挑戦しました。

6年生が考えてきた設計図に従って、学年に応じた役割を分担しながら海の生き物を作りました。広大な太平洋をバックに、浜辺に打ち寄せる波の音を聞きながら、全校で造形活動に取り組めるのも、環境に恵まれた高松小ならではの事です。

造形後には、審査員の先生方による審査があり、ウミガメの作品に「ほのぼの海のマスコット賞」、ラッコの作品に「ダイナミックないたずラッコ賞」など、それぞれの作品にぴったりの賞が発表されました。その後もお弁当を食べたり、一緒に遊んだり、フレンズ班で楽しく1日過ごすことができました。



「思いやりの気持ちを育てる」 あかはに探検隊

赤羽根小学校

本校では、仲間と活動する喜びを感じ、仲間への思いやりの気持ちを持つことができるように、縦割り班活動を多く取り入れています。

4月に行われた「あかはに探検隊」※では、縦割り班で校区を探検しました。6年生が1年生と手をつないで歩いたり、2年生が5年生と話しながら探検したりする姿がみられました。校区の海では、6年生が企画した「鬼ごっこ」や「だるまさんがころんだ」などの遊びを楽しみました。

また、^{ごんのうじ}厳王寺では、本堂に入れていただき、子どもたちは、普段見慣れないものに興味津々。住職さんの講話の中で、「命のバトンがずっと続いてきたから今の君たちがいる」と聞き、歴史の重みを感じました。

校区を縦断しての探検でしたが、高学年に励まされ、どの子も最後まで歩くことができました。仲間の良さと校区の良さを感じながら、あかはに探検隊を無事終えました。

※赤羽根地区に古来から産出する「赤いねば土(粘土)」のことを、「あかはに」と呼んでいた。赤羽根の名前の由来にもなっており、探検隊の名前とした



●6年生が1年生の手を引いて歩きました



●厳王寺の住職さんの話を聞く児童ら